

## ■ 本文

立てる人どもは、装束（さうぞく）のきよらなること、ものにも似ず。飛ぶ車一つ具（ぐ）したり。羅蓋（らがい）さしたり。その中に王（おう）とおぼしき人、家に、「造麻呂（みやつこまろ）、まうで来（こ）〔①〕。」と言ふに、猛（たけ）く思ひつる造麻呂も、物に酔ひたる心地して、うつぶしに伏せり。

……（中略）……

その返り事（かへりごと）はなくて、屋（や）の上に飛ぶ車を寄せて、「いざ、かぐや姫。きたなき所にかでか久しくおはせ〔②〕む。」と言ふ。立て籠（こ）めたる所の戸、すなはちただ開きに開きぬ。格子（かうし）どもも、人はなくして開きぬ。媪（おうな）抱きてゐたるかぐや姫、外に出でぬ。〔③〕えとどむまじければ、たださし仰ぎて泣きをり。

……（中略）……

天人の中に、持たせたる箱あり。天の羽衣（はごろも）入れり。またあるは不死の薬入れり。一人の天人言ふ、「壺（つぼ）なる御薬（みくすり）奉れ〔④〕。きたなき所のもの聞こしめし〔⑤〕たれば、御心地（みここち）悪（あ）しからむものぞ。」とて、持て寄りたれば、いささかなめ給ひて、少し形見とて、脱ぎ置く衣（きぬ）に包まむとすれば、ある天人包ませず。御衣（おんぞ）を取り出でて着せむとす。その時に、かぐや姫、「しばし待て。」と言ふ。「衣（きぬ）着せつる人は、心異（こと）になるなりといふ。〔⑥〕もの一言（ひとこと）、言ひ置くべきことありけり。」と言ひて、文（ふみ）書く。天人、「遅し。」と心もとながり給ふ。かぐや姫、「物知らぬことなのたまひそ。」とて、いみじく静かに、朝廷（おほやけ）に御文（おんふみ）奉り給ふ。〔⑦〕あわてぬさまなり。

……（中略）……

中將取りつれば、ふと天の羽衣うち着せ奉りつれば、翁を、いとほし、かなしと思しつる〔⑧〕ことも失せぬ。この衣着つる人は、もの思ひなくなりにはければ、車に乗りて、百人ばかり天人具して昇りぬ。

## ■ 設問（全22問）

1. 傍線部①「まうで来」について、次の問いに答えなさい。

（あ）敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧）を答えなさい。

（い）敬語の種類と命令の相手に注意して、現代語訳しなさい。

2. 傍線部②「おはせむ」について、次の問いに答えなさい。

（あ）「おはせ」は敬語動詞である。その種類（尊敬・謙譲・丁寧）と、もとになる動詞の意味を答えなさい。

（い）「いかでか……おはせむ」は、ここではどのような意味の表現か。係助詞「か」の用法に注意して、現代語訳しなさい。

3. 傍線部③「軀抱きてゐたるかぐや姫、外に出でぬ」を現代語訳しなさい。「ゐ（居）る」の意味と、文末の「ぬ」の文法的意味（助動詞の意味）に注意すること。
4. 傍線部③の文末「出でぬ」の「ぬ」について、次の問いに答えなさい。
  - (あ) 助動詞「ぬ」の文法的意味を答えなさい。
  - (い) この「ぬ」の終止形を答えなさい。
5. 傍線部④「奉れ」・傍線部⑤「聞こしめし」について、次の問いに答えなさい。
  - (あ) それぞれの敬語の種類（尊敬・謙譲）を答えなさい。
  - (い) それぞれ誰に対する敬意を表す敬語か、答えなさい。
6. 傍線部④をめぐって、天人がかぐや姫に「壺なる御葉奉れ」と勧めているのはなぜか。「きたなき所のもの聞こしめしたれば……」の部分をつまえて説明しなさい。
7. 傍線部⑤「聞こしめし」は、もともとどの動詞の敬語か。また、ここでの口語訳（意味）を答えなさい。
8. 傍線部⑥「衣着せつる人は、心異になるなりといふ」を現代語訳しなさい。「異になる」の意味がはっきりわかるように訳すこと。
9. 傍線部⑥「着せつる」の「つる」について、次の問いに答えなさい。
  - (あ) 助動詞の基本形（終止形）と文法的意味を答えなさい。
  - (い) ここで連体形「つる」になっている理由を、簡潔に説明しなさい。
10. 傍線部⑥に関連して、かぐや姫が天の羽衣を着る前に「文（ふみ）」を書こうとしたのはなぜか。「衣を着ると心が変わる」という本文の内容に即して、わかりやすく説明しなさい。
11. かぐや姫が「いみじく静かに」「あわてぬさまなり」と描かれていることから、このときのかぐや姫はどのような心の状態にあると考えられるか。天人が「遅し」と急かしている様子と対比して、簡潔に説明しなさい。
12. 傍線部⑦「朝廷に御文奉り給ふ」について、次の問いに答えなさい。
  - (あ) この一文には敬語が二つ含まれている。「奉り」「給ふ」のそれぞれについて、敬語の種類（尊敬・謙譲）を答えなさい。
  - (い) 「奉り」「給ふ」はそれぞれ誰に対する敬意を表すか、答えなさい。
13. 傍線部⑦「朝廷に御文奉り給ふ」を現代語訳しなさい。「朝廷（おほやけ）」が誰を指すかにも注意すること。
14. 傍線部⑦の場面あと、かぐや姫が天の羽衣を着せられた結果、その心はどのように変化したか。本文中の言葉（「いとほし、かなし」「もの思ひなく」）を用いて説明しなさい。
15. 傍線部⑧「思しつる」について、次の問いに答えなさい。
  - (あ) 「思し」はどの動詞の敬語か。敬語の種類（尊敬・謙譲）も答えなさい。
  - (い) 「つる」の文法的意味（助動詞の意味）と活用形を答えなさい。
16. 本文「立て籠めたる所の戸、すなはちただ開きに開きぬ。格子どもも、人はなくして開きぬ」とあるが、ここからかぐや姫を迎えに来た天人のどのような力（性質）が読み取れるか、簡潔に説明しなさい。
17. 翁・姫は、外へ出てしまうかぐや姫を引きとめようとするが、結局どうすることもできない。そのときの姫（および翁）の様子と心情が表れている部分を、本文中から十字以内で抜き出しなさい。

18. 次の語句の、本文中での意味を答えなさい。

(あ) きよら (「装束のきよらなること」)

(い) いとほし (「翁を、いとほし、かなしと思しつる」)

(う) 形見 (「少し形見とて」)

19. 次の語句の、本文中での意味を答えなさい。

(あ) 心もとながり (「『遅し。』と心もとながり給ふ」)

(い) 具す (「百人ばかり天人具して」)

20. 【文学史】『竹取物語』は、『源氏物語』の中で「物語の出で来はじめの祖 (おや)」と評されている。これは竹取物語が文学史上どのような作品であることを示しているか、簡潔に説明しなさい。

21. 【文学史】竹取物語のように、空想的・超自然的な要素を中心とする物語のジャンルを何というか、漢字で答えなさい。

22. 【文学史】竹取物語について、次の問いに答えなさい。

(あ) 竹取物語は、現存する日本最古の何という種類の物語とされているか、漢字で答えなさい。

(い) 竹取物語は、和歌を中心に物語が展開する「歌物語」とは区別される。歌物語の代表作を一つ挙げなさい。